

卷之三

No. 225
1981.3.26

アリクス主事生田
中核派・京大支部
建部先京都市下京区寺町通松原上る
京都町四九七西田元

今春期洪戰の大爆發で 80年代革命の突破口きりひらぼ

碑川三里塚決戦勝利の大高揚きりひらけQ。81年二期着工阻止Q。81→83年三里塚決戦に勝利せよQ。

【垂秀千葉防衛】一億円大太シバ闘争の全国民的大運動をまきおこせ。

わが中核派は、昨年十一・三〇、現代の
チヌリカタマル白色テロリストアムニ

三三五のノイエ・イン建築第七立坑は、
火力炎放用攻撃を敢行し、立坑内管理事務所等施設を焼上せしものである。

五名を完全せん滅する等大な勝利をかち
とつた。これに對して、日本・國家権力
は三田塚二期工事阻止、バイアライン建設
をかちとつた。この革命的ケリラ戦争
は、わが中核派と革命軍の壊滅をめざし
一・三大謀略彈圧へのわが同志五名のテ
ツチあげ全国指名手配・死刑抹殺攻撃、わ
れづれもハーハ三年過度失敗のまゝ、

にうつて、このことをもつて、われわれは日本・国家権力との倒すか倒されるかの関係、「せん滅戦の論理」が冷徹に貫かれる三〇年代型死闘期へと完全に突入した。

日本は体制的死活をかけ、八〇年代中期に軍事大国化・改憲攻撃をすえ、戦略的に攻勢にうつてしようと/or>している。この階

「千葉千三百の革命的労働者ば、『労農連帶』の旗を高く掲げ、三月ジェット燃

米貨車輸送延長阻止決戦ストの大爆発を
かちとり、軍事大國化・改憲攻撃と三里
塙二期工事強行に突つ走る日帝をうちの

めし、反革命力クマルに大打撃を与え、全人民の心を感動的に振り動かした。わが革命軍は、この動力千葉と固く連帯

三〇一〇年九月十三日，于樂市烟販二
關西新亞港經反對。

泉佐野現地
八工様より三塁塗装精利百
三十

4
28
錢木訪木祖止○沖繩闇爭勝利の反革命力クブル完
去日

1・13 大謀略弾圧粉碎○ 現代のナチス＝カクマルを殲滅せ

重賞千葉防衛一億円大刀山に闘争の全国的大展開 われがきりひらいてきた八〇年代こそ、三〇年代

かちとれ。

十・三〇戦闘一一・一大弾圧ト三月動員千葉 決戦ストー三・一〇戦争は、わが中核派の現代革命勝利の唯一の道たる先制的内戦戦略の物質化として、一体のものとしてかちとられてきた。われ

命勝利の唯二の道たる先制的内戦戦略の物質化として、一体のものとしてかちとられてきた。われ

かちとれ。

の敗北をのりこえる一切の準備をもつた革共同 中核派のみが最もよいたたかいうる時代である。すべてこの革命的学友は、マルクス同中核派京大文 部に結集し、ともに八〇年代革命日本アーレタリア革命をきりひらいて。

1. 12月大詠歌弾圧トテナント人民的階級的十人以下襲撃也！

すべての學友諸君！ とりわけ新入生諸君！

わが中核派は、あの偉大な昨秋十一・三〇戦闘へ

三・一四下寺人丁ハニ五名一擧完全せん滅シに對してゆけられた日帝國家権力の一・一大謀略弾圧を満腔の怒りをこめて弾劾し、革命党的尊嚴を

なげて粉碎し、粉碎し尽すことを宣言するものである。われわれは一・一三以来この戦前

型治守維持法型フレームアッフ弾圧を爆碎する全

党全人民の根柢的絶決起をなすと、敵の内戦

鎮圧一革命党破壊の大攻撃をうち破つこめた。

自撃者多數「指紋」などという真似なうんと出

心で許すな。中核派のメンバーといつだけで、全く無関係な五名の同志を「逮捕・投獄・死刑」にまでじとうという極悪非道を断じて許すは。

われわれの回答は、唯一、第二第三の十・三〇 戦闘を叩きつけ力アッフもろとも日帝を打倒することであるが、ならない。

日帝権力は戦前戦後モづらじて革命党と革命運動の往復モ一貫してフレームアッフ攻撃をもつておぞいななり孤立させ屈服を強い、たたひの背

骨を立たせんあつてきた。しかしながら、革命党的権力との「せん滅戦」的死闘を断じて忘れるこ

はく真正面から対峙し、内戦蜂起の旗を高く掲げて進撃するゆきり必ずうち破ることばかり。なぜならそれはテツチアガであり、轟向と屈服への反革命的恫喝であり、国家権力の危機の表現であるからだ。

われわれは一・一三弾圧を必然化した本質的な

歴史の動きのなかに革命の現実性・中核派の勝利の現実性一必然性があることをみなくてはならぬ。開始された三〇年代型死闘に勝利しなくともとおして、革命の勝利を確実にたゞりとせることができるのだ。

わが中核派の歴史的たたなれと到達点

「なるる内乱的義闘をきりひらいたわが中核派のたたなれとはいふなるものか。」

われわれは、一九五七年の革命的共産主義運動の創成以来日シア革命を實現したマルクス・レ

の敗北をのりこえる一切の準備をもつた革共同 中核派のみが最もよいたたかいうる時代である。すべてこの革命的学友は、マルクス同中核派京大文 部に結集し、ともに八〇年代革命日本アーレタリア革命をきりひらいて。

の敗北をのりこえる一切の準備をもつた革共同 中核派のみが最もよいたたかいうる時代である。

ターリン主義ヒ誤別ヒ、反帝国主義反スターリン倒にあつて徹底的にたじねいてきた。(六〇)

主義スロレタリア革命ヒその一環ヒじての日帝耳守保闘争の前進をなすと、六六年軍兵威第三回大会テーひを武器として六七年十・一羽田以降

ターリン主義ヒ誤別ヒ、反帝国主義反スターリン倒にあつて徹底的にたじねいてきた。(六〇)

耳守保闘争の前進をなすと、六六年軍兵威第三回大会テーひを武器として六七年十・一羽田以降

ターリン主義ヒ誤別ヒ、反帝国主義反スターリン倒にあつて徹底的にたじねいてきた。(六〇)

守つただけではなく、二の死闘にかちぬくために、三〇年代革命の敗北から学び、二重対峙戦が現代革命の不可避免の普遍的な進路である「ことをどうえかえして、二重対峙・対力ママル戦を現実的本質的突破口とする先制的内戦略を反帝国主義・反スターリン主義世界革命、日本革命の唯一の革命的先制的水路として確立し、徹底的にそれを物質化してきた。

そのための党的武装と武裝闘争をつくとし、それを担う党とその革命軍の非合法・非公然的建設をおしすすめしてきた。またそれを基軸として戦争下の対日帝ナリヤ戦争を前進させ、戦争下の大衆的政治闘争の発展を二にじあけ、二重対峙・対力タマール戦の全階級的・全人民的發展を先制的にきりはらしてきた。

二の十年間の不撓不屈の戦争こそが、八〇年代内乱・内戦・烽起への道を、勝利への内戦陣形の確立と帝国主義国における武装解放闘争の開始として決定的に準備した。十・三〇戦闘はこうした八〇年代内乱的死闘の到来を雷鳴のように告げしらせたのだ。

三〇年代をこえる激動期の到来

ではかかる内乱的死闘を規定する三〇年代型激動はいかにして訪れようとしているのか。

一九一七年、レーニンとボリシェビキ党が起り、ひらいたロシア革命は人類史に恒久平和を実現するため、帝国主義を地上から一掃し、社会主义を実現するたたかいの端緒をきりひらき、世界史の

社会主義と帝国主義への分裂をつくりだし、労働者国家ソ連は、アロレタリア世界革命の砦として全世界人民から希望の眼をもって迎えられた。(月)

が一国社会主義理論と平和共存政策をもつて、ローランダ世界革命のたたかいを終殺し、ソ連国家権力を篡奪したスターリンとスターリン主義官僚

は、労働者国家をも反革命的に変質せしめ、二〇年代におけるドイツ革命、フランス革命、スペイン革命を絶殺し、敗北に導き、第二次大戦を阻止

する」ことができず、遂に自己の帝国主義世界観年に受動的にまきこまれ、ヤルタ体制をもつて帝國主義と社会主義の世界史的分裂を帝國主義とスターリン主義の世界史的体平和共存へと交渉せじめ、世界史のアロレタリア世界革命にむかうとどめ難い巨大な歴史的潮流を反動的に固定化

三〇年代において民族解放・革命戦争の創成曲
歪曲・歪曲的創成をもつて革命的暴力を駆使しな

き勝利しえたのは、毛沢東とホーチミンとチャーチーの指導するたたかいのみであった。だがこれらたたかいによつて創成された独立国家もスターリンのソ連、よつて重大な圧迫を受けた。レーニン主義を葬り去り、民族対立・民族抑圧をアロレタリア世界革命の勝利のうちに革命的に止揚しえず、逆に新たな民族対立すら生みだす一国社会主義理諭に基づくソ連ズダーリン主義国家によってこれらの国々は民族的抑圧を受け、中ソ対立、ソ連ユーロ対立を必然化し、ついには中国ベトナム戦争、ベトナム・カンボジア戦争といったスターリン主義国家間戦争をやらひきおこすという、アロレタリア世界革命のたたかいを阻害し、帝国主義との同盟と協商による延命を策す反動的な要因に転化してしまった。

かくして帝国主義の心臓部はなお延命し、帝国主義の根本矛盾が侵略と戦争、いかんなく帝国主義間戦争を中心とする世界戦争へと大爆発をとげる三〇年代をこえる世界史的懸機がいま訪れようとしているのだ。

したがつてわれわれは人類史に恒久平和を実現するためには、社会主義を築きあげるためにば、戦争の根源をなす社会体制たる帝国主義とスターリン主義を地球上から一掃する必要があるのである。われわれはこのたたかいを革命戦争をもつて、帝国主義とスターリン主義の戦争を阻止し、縮減する立場に立たなければならぬ。これこそレーニン主義の核心たる革命的敗北主義、侵略を内糾へのたたかいにほかならない。

うに掲げあげ、ウソとタラハとデッヂあげとをもって遠隔監禁し、長期にわたつて投獄し、人間的自由を奪い、死刑や無期徒刑をもつて脅迫するという権利がどこにあるというのか。

われわれは人間のあたりまえの正義と人道が通る社会を実現するためにたたかうとするのである。資本主義的生産様式の社会体制はすでにとっくに二〇世紀初頭その歴史的生命力を終え、次の新たな社会体制、階級の廢止を実現しうる社会主義へと席を譲るべき時代が到来している。日本帝国主義と中核派との対立は思想非道の暗黒政治か正義

II 三月動労千葉スト決戦ノトキ 段々の大勝利

を力十りとこひ

三月動労千葉ストは、かねる日本国家権力との三〇年代型の内乱的死闘にうちかち、一・一三大謀略彈圧をぬちやぶつてかちとられた。動労千葉一三里塚反対同盟一中核派を先頭とする支援部隊の総力をあげて決戦勃発起としてあり、始め、権力・国鉄当局・カクマル・反動分子を圧倒しぬいて全日本を搖るがす空前のたたかいとしてうちぬかれたのだ。三月二日のスト開始から三月六日の總武線・全線区にわたる大ストライキにのぼりつめる五日闘のズトでシヤツト燃料貨車三〇本、列車は合計千五百本(五日特急・急行六七九本・六日二九〇本)をズト止めたのである。しかも六日は總武線全面ストップによつて横須賀線・中央線・常磐線など首都圏全体が大混乱する大鬪争一大ストとなりて燃え上がり、千葉一首都圈一全国を大きく揺り動かす空前の大ストライキとしこづくめられた。

ハーハ三年階級決戦の勝利の道きりひらく

動労千葉決戦ストは戦後革命期以来の歴史的な激動期たるハーハ三年階級決戦の内乱的高場をきりひらく大ストとして運営された。戦後の既得権の一切の剥奪、一部の階級的たたかいの鎮圧、三里塚・中央線・常磐線など首都圏全体が大混乱する大鬪争一大ストとなりて燃え上がり、千葉一首都圈一全国を大きく揺り動かす空前の大ストライキ等を手離し、階級的团结の自壊の道を転落しながら延命しようとする社共の道は労働者階級の全面的南北の道にほかならない。五日間の政治ストに次起した動労千葉は改良主義の汚辱にまみれた帝国主義の奴隸たることを拒否し、たゞ改良的副産物(様々な競争権)のいさいをいふたんばたらうことがあらうとも、労働者階級自己解消ストに次起した動労千葉は改良主義の汚辱にま

おの階級闘争の原点に立ちぬえり、そこに生れせんと決意したのだ。いかにそれが内乱的死闘にみだりひらき大ストとして運営された。動労千葉の労働者千葉一三里塚反対同盟一中核派を先頭とする支援部隊の総力をあげて決戦勃発起としてあり、始め、権力・国鉄当局・カクマル・反動分子を圧倒しぬいて全日本を搖るがす空前のたたかいとしてうちぬかれた。

三里塚二期決戦の勝利の展望きりひらく

三月六日の總武線・全線区にわたる大ストライキにのぼりつめる五日闘のズトでシヤツト燃料貨車三〇本、列車は合計千五百本(五日特急・急行六七九本・六日二九〇本)をズト止めたのである。しかも六日は總武線全面ストップによつて横須賀線・中央線・常磐線など首都圏全体が大混乱する大鬪争一大ストとなりて燃え上がり、千葉一首都圏一全国を大きく揺り動かす空前の大ストライキ等を手離し、階級的团结の自壊の道を転落しながら延命しようとする社共の道は労働者階級の全面的南北の道にほかならない。五日間の政

治の階級闘争の原点に立ちぬえり、そこに生れせんと決意したのだ。いかにそれが内乱的死闘にみだりひらき大ストとして運営された。動労千葉の労働者千葉一三里塚反対同盟一中核派を先頭とする支援部隊の総力をあげて決戦勃発起としてあり、始め、権力・国鉄当局・カクマル・反動分子を圧倒しぬいて全日本を搖るがす空前のたたかいとしてうちぬかれた。

ハーハ三年階級決戦の巨大な火蓋を切つて落としたのだ。

動労カクマル完全打倒への突破口ひらく

動労千葉は労農連帯の路線と魂をかけて「分離独立」をぬちとり、カクマル松崎一派の暴力的組織、被爆攻撃との白兵戦的たたかいを貫くことによつたんばたらうことがあらうとも、労働者階級自己解消

ストに次起した動労千葉は改良主義の汚辱にまみれた帝国主義の奴隸たることを拒否し、たゞ改良的副産物(様々な競争権)のいさいをいふたんばたらうことがあらうとも、労働者階級自己解消

ストの階級闘争の原点に立ちぬえり、そこに生れせんと決意したのだ。いかにそれが内乱的死闘にみだりひらき大ストとして運営された。動労千葉の労働者千葉一三里塚反対同盟一中核派を先頭とする支援部隊の総力をあげて決戦勃発起としてあり、始め、権力・国鉄当局・カクマル・反動分子を圧倒しぬいて全日本を搖るがす空前のたたかいとしてうちぬかれた。

わが中核派は、「一・一三大謀略彈圧をうち殺り、二重対時・対カクマル戦に必ず勝利することを再度宣言する。もつてハ〇年代日本革命の大道を進するだろう。ハ一年一月のたたかいは、そ

の決定的血路を压倒的にきりひらいたのだ。

なものとしてきた。そして三日決戦ストップの大爆発は、カクマルの反革命ストップとしての姿を全人民の前に表きだし、カクマル松崎二派粉碎・一掃一動の大改革への一大巨歩を築いたのだ。全人民の怒りでファシスト・カクマルを断罪し、三・一四復讐戦裏敵川総反攻完遂、カクマル完全打倒まで突き進もう。

中核派の労働者階級の前衛としての飛躍

いかなる権力の御喝も、反革命の敵対も許さぬ革命的指導により革命的人民は義理された。二重対峙・対内ケマル戦を基軸とする先制的内戦戦略の中核派の正しい指導に次り動員千葉決戦ストップの全面展開という八の年代革命の基本路線にのつとつたたかいとしての貴重、そうした革只同一中核派の正しい指導に次り動員千葉決戦ストは勝利したのだ。

それは五七年国鉄新潟闘争をのりこえる革命的大ストとしてうちぬかれた。国鉄新潟のたたかいは五七春闘への処分反対闘争として爆発し、国鉄

今日内外情勢は、米帝の歴史的没落と帝国主義の争闘戦がかつてなく激化し、レーガンの登場がこの事態をいっそう激しく促進させ、米帝経済の破局的危機をよりいっそう深めている。ここでレーガンは一方で激しい戦争政策に訴え、他帝の戦争への歴史的無準備をつきまとつて争闘戦における優位性を維持し、他方で保護政策によつて米市場から日帝など他帝をたたき出そうとしている。こうしたレーガンの道は世界戦争的危機と世界経済の解体的危機をもたらす以外のなにものでもない。

いまや帝国主義経済の矛盾はアッと言ふ間に、帝国主義的排外主義の時代を到来せしめつづある。軍事力の準備のおり帝国主義は有無を言わざず追いこめられ、風服と浮城、権益の放棄を要求される時代に入したのだ。日帝はいまやどんなにあがこうとも、いまだどおりのやり方でやつてしまふことは絶対にできなくなつた。ここにこそ今日の日帝の衝き動かしている绝望的反動化、绝望的軍事大国化の眞の根源があるのである。

軍事大国化・改憲攻撃へ戦略的攻勢を開始した日帝

こうして日帝は安保防衛政策の原理的転換に動き出し、はつきりと独自の軍事大国化の道をふみだした。その決定的マルクマールはついに日帝が改憲攻撃にふみきつたことである。

前衛運動にとつてきわめて決定的意義をもつ大闘争にたが、当時これを指導した国防中央・日共・革同の裏切りによつて新潟一北陸・関東をゆるがす大闘争となりながら相づぐ処分攻撃の前に敗北していった。今回の動員千葉ストは、全人民の指導の裏切りがない革命党的強力な指導、組合分裂の有無(新潟闘争のときは、スト中、下部からの指令返上続出、分裂、鉄砲の発生をまねいた)と、いう点においてもはるかにのりこえたかいである。

総じて、三月動員千葉スト決戦は、十・三〇戦闘・トト一・一三大連圧情勢下で文字通り動員千葉「三里塚を舞台に全日本を根底から揺るがし、ハーハ三年階級決戦の巨大な火蓋を切つて落とし、日本階級闘争の歴史的高場局面を切りひらいた」ということを断固として確認することができる。

80年代中期階級決戦の本格的到來

日帝の軍事大国化の現段階は「防衛前面の大綱」、「專守防衛からアジアにおける「中核勢力」「侵略戦力」の形成に大きくなりすぎてしまっている。これは、「いわゆる「ハイドライ」」と書われている米軍事力は、「攻勢面」、自衛隊は「防勢面」という枠を日帝自衛隊が大きくぶみこんでつあるということを意味する重大な事態である。これを示すものがハリの年十一年の「中業の一年前倒し論議」「防衛費論議」「竹田統幕議長の專守防衛批判」「金丸報言」等すさまじい勢いでまさにこゝでいる。

安保防衛政策の原理的転換、専守防衛形式から侵略有の形成への転換、GDP一帯のレベルの実戦などは、戦後憲法的秩序の大枠と激突せざるをえない。そして戦後憲法をめぐる決戦といふ公然たる戦場がひらかれるとき、民衆の大衆の潜在的力はいまだ決してうち碎かれていはない。この「新防衛構想の提言」である。こうした論議は「中業の一年前倒し論議」「防衛費論議」「竹田統幕議長の専守防衛批判」「金丸報言」等すさまじい勢いでまさにこゝでいる。

この方法、憲法九条のインチキ解釈の方法をもつて自衛隊を合憲とし、自衛隊の増強を合理化してきた。しかし日帝が本格的な帝国主義的に挑戦しようとするとき、この憲法九条は決定的方法をもつてきていている。

争放棄、軍備及び交戦権の否認)を記した条項で

①「日本国民は正義と秩序とを基調とする国際平和を誠実に希求し國權の発動たる戰争と武力による威嚇または武力の行使は國際紛争を解決する手段としてはこれを永久に放棄する」②「前項の目的を達成するための陸・海・空その他の戦力はこれを保持しない、國の交戦権はこれを認めない」(全文)というものである。

毎年八月廻野法相が改憲論議をアサエで以来

帝は、八三年の選挙へ衆参同時選挙になる可能性が強い)を決定的メルクマールに、八〇年代中

期に一挙に改憲攻撃を強行せんと本格的本戦略的攻勢に転じてきた。

「八三年選挙では改憲問題で国民の信を問う」(奥野法相)これは日帝支配階級体の一一致した見解なのだ。民社党の賛成があつてからになれば改憲を行なう。(自民党桜内幹事長)に公表されても圧力をかけて変更を誘い出そうとしている。「徵兵制を合憲にせよ」(竹田統籌議長)

「徵兵制が施行せりのは九条があるからではなく十一条と十八条だ」(政府見解)等々。かくて八〇年代中期階級戦の大突破口になるものがハーハ三年三里塚二期決戦である。

日帝はハーハ三年過程に三里塚二期工事を强行し、三里塚圧殺をはかるとして、八三年をメルケマールとする八〇年代中期の軍事大國化・改憲攻撃へ一気に突き進まんとしているのだ。三里塚はこの八一年、二期工事着手をめぐって決戦的死闘になることは明白である。一月二三日空港公園建設角坂、二月九日空港公園新副総裁松本の二期着工宣言、長谷川成田市長、真行寺芝山町長の二期工事への決意表明等、事態はきわめて切迫している。

アシスト的鷄化を深める反革命ガクマル

かかる情勢の激動とわれわれのたたかいに追いつめられて反革命ガクマルのアシストとしての正体は、このままます全人民の前に明らかにきつこきている。

第一回 ガクマル九州「解体石」の部屋を提供

またお水車デマ運動(ナスボリのデマで人民を惑ふるが眞實の口露運動)の九州世話をも引

き受けている久我美蔵があれもない福岡県警と

九州公安調査局のスパイであるという動かし難い

事実が明らかになつた。しかも九州ガクマル最高幹としては「これを永久に放棄することである。」(前項の日)スペイ久我を「育ての母」と慕い、トコである)とれを保持しない、國の交戦権はこれを認めない」(全文)と云ふのである。

は、「援助を得るために会い、また下本審査調査

は、この正真正銘の警察=ガクマル連合の正体を犯し、粉碎しぬくことを宣言する。

第二回 ガクマル副議長松崎明は、動労千葉が

三月決戦ストに決起するや、銃子機関において目的に動労千葉地本なる反革命第二組合テックチ

動労千葉分裂策をおしすすめ、3月スト破りをあげを策動し、動労千葉が2月スト破り助役機関士導入阻止、線見強行阻止から3月大政治ストに突入するや、なりふりかまわぬスト破りを行なつたのだ。その露骨さは千葉に有力組織を持たない

鉄勞をはるかにこえて凶悪であり、六日の終戦線全線ストライキを前にして、国防幹部に執拗に入り破りガクマル交渉仕業をきい頗るこいるのだ。スト6月時間ストに顔面蒼白となり、今ひたすら権力の

動労千葉大舞庄専会を乞い願つてゐる。そこでアシストに明るかだ。

第三回 動労千葉決戦の爆發で八〇年代中期階級決戦への

三・四復讐戦を完全全人民の総力で貢献せよ

今春期決戦をかちどけるわれわれが第一の任務は、

一・二・三・四舞生と死力をもべくしてたしかに、二重村

ある。十・三・四戦闘をあくまでおこしすすめることで

ある。十・三・四復讐戦をかちどけることである。

三・四反革命は反革命ガクマルによる革命的虐殺であり、それを勝利するまで續く革命的内戦の推進輪郭だ。

これはねらがねらがない。

今目的である。それゆえ八〇年代革命の絶対的基本はアシスト=ガクマルを完全に打倒し、革命に

勝利するまで續く革命的内戦の推進輪郭だ。

動労千葉防衛一億円アシストの全国民的大

運動をまきおこせ。

第二回の任務は、戦争下の戦争と國争の大爆発をかちどけることである。どうおけわれれば、三・四・五・六千葉に對して日本幹部運動(運動上未嘗)はアシスト=ガクマルを完全に打倒し、革命に勝利するまで續く革命的内戦の推進輪郭だ。

これがねらがねらがない。

三・四階級戦は決戦の終わりではなく、より巨

大な決戦の始まりである。日帝幹部、国幹部を

かぢとぞりことである。眞に二〇年代の戦

争である。三・四反革命は反革命ガクマルによる革命的虐殺であり、それを

勝利するまで續く革命的内戦の推進輪郭だ。

動労千葉支那支那大爆発を庶民に贈る

たばかりである。

三・四階級戦は決戦の終わりではなく、より巨

大な決戦の始まりである。日帝幹部、国幹部を

かぢとぞりことである。眞に二〇年代の戦

争である。三・四反革命は反革命ガクマルによる革命的虐殺であり、それを

勝利するまで續く革命的内戦の推進輪郭だ。